

カネミ油症被害者岩村定子さんとの第一子、第二子、第三子の 保存臍帯(へその緒)における ダイオキシン類に関する報告

2025年1月

この報告は、岩村定子さん(長崎県五島市奈留在住)の3人の子どものへその緒中で検出されたダイオキシン類について、カネミ油症被害によるものであります。
なお岩村定子さんはカネミ油症認定被害者です。

【結果】

カネミ油症被害者岩村定子さんの出生児3人のへその緒におけるダイオキシン類のTEQ濃度は、他のカネミ油症認定被害者出生児と同様に、健常者の出生児保存臍帯よりも遙かに高いことが確認できました。第一子(故 満広さん)は、健常者の約13倍、第二子は8.2倍、第三子は5.2倍があり、3人のへその緒におけるTEQ(毒性等量)の占有率は、PCDF(ポリ塩化ジベンゾフラン、カネミ油症の原因物質)以外にPCDD(ダイオキシン)もかなりの割合を示していました。つまり、岩村定子さんの体内に蓄積しているダイオキシン類の汚染の影響を受けていることが強く推測されました。(下図参照)

1. 保存臍帯試料

カネミ油症被害者岩村定子さん(現在75歳)の3人の保存臍帯は常温で桐箱などに保管されていました

第一子: 男性、岩村満広さん。1973年8月5日生まれ。出生後、チアノーゼ、口唇口蓋裂、肛門不全、心臓疾患などを煩い、生後4ヶ月で逝去。試料の一部は福岡県環境衛生研究所で分析(2013年頃)が行われたため、非常に少なく、今回の分析に使用できた量は、0.025gありました。

第二子: 男性、1975年6月15日生まれで、現在49歳。0.3472gの試料を分析に用いました。

第三子: 女性、1977年5月1日生まれで、現在47歳。0.2203gの試料を分析に用いました。

2. 健常者の出生児、カネミ油症認定被害者の出生児、及びカネミ油症被害者、岩村定子さんの出生児3人の保存臍帯におけるダイオキシン類のTEQ濃度(毒性等量)と、TEQ濃度に占める各ダイオキシン類の占有率

表1に健常者出産児とカネミ油症被害者出生児のへその緒に含まれるダイオキシン類の2,3,7,8-TCDD 毒性等量(TEQ)濃度を示しました。健常者およびカネミ油症被害者(認定)の出生児のデータは、梶原淳睦らの文献¹⁾から引用しました。この文献には、ダイオキシン類の実測濃度の記載がなく、TEQ濃度についてのみ言及されていたため、本調査対象とする油症被害者の3人の子ども達の濃度もTEQ濃度を記載して、検討しました。

健常者の出生児12人の平均合計TEQ濃度は、0.66 pg-TEQ/g dry weightに対して、カネミ油症認定被害者の出生児18人の平均濃度は8.5倍も顕著に高い5.26 pg-TEQ/g dry

表1. 健常者の出産児とカネミ油症認定被害者の出産児の保存臍帯における
ダイオキシン類のTEQ濃度

化合物	TEQ濃度(pg-TEQ/g dry weight)				
	健常者 (n=12) ¹⁾	カネミ油症認定被害者 (n=18) ¹⁾	カネミ油症被害者岩村定子 ²⁾		
			第1子	第2子	第3子
PCDD	0.5	0.55	4.1	2.1	0.86
PCDF	0.11	4.55	4.3	2.1	1.8
Co-PCB	0.05	0.16	0.13	1.2	0.75
合計	0.66	5.26	8.53	5.40	3.41

weightでした。

※PCDD ダイオキシン、PCDF ポリ塩化ジベンゾフラン、Co-PCB コプラナ PCB

カネミ油症被害者、岩村定子さんの第一子(8.53 pg-TEQ/g dry weight)、第二子(5.40 pg-TEQ/g dry weight)、第三子(3.41 pg-TEQ/g dry weight)の濃度も、健常者出生児よりも12.9倍、8.2倍および5.2倍も高い。また、油症原因物質の主因物質がPCDF(ポリ塩化ジベンゾフラン)であることを考慮すると、健常者の出生児へその緒のPCDFのTEQ濃度(0.11pg-TEQ/g dry weight)と比較して、カネミ油症認定被害者の出生児へその緒(4.55pg-TEQ/g dry weight)は41倍も高い。また、カネミ油症認定被害者の出生児へその緒と同様に、カネミ油症被害者岩村定子さんの出生児3人のへその緒のPCDFのTEQ濃度(第一子:4.3 pg-TEQ/g dry weight、第二子:2.1 pg-TEQ/g dry weight、第三子:1.8 pg-TEQ/g dry weight)も、健常者の39倍、19倍および16倍も顕著に高い。従って、これら結果から、岩村定子さんの体内に蓄積していたカネミ油症の原因物質であるダイオキシン類が、胎盤経由で3人の出生児に移行したことが強く推測される。

引用文献

- 1) 梶原淳睦ら:油症患者の保存臍帯(へその緒)中のダイオキシン類濃度、福岡医誌、100, 179-182 (2009)

2) カネミ油症被害者出生児3人の保存臍帯のダイオキシン類分析結果、(カネミ油症へその緒プロジェクト、2024年10月)

「母と子の絆～カネミ油症の真実」製作委員会 へその緒プロジェクト より

以上の報告結果から、岩村定子さんの3人のお子さんには、母体からへその緒(臍帯)を通して、胎児(出生児)にダイオキシン類の毒性物質(カネミ倉庫製「カネミライスオイル」が原因)が移行して、カネミ油症の症状が見られることが明白となりました。

つまり「へその緒」検査こそが、カネミ油症被害者であることを認めることになるのです。

「へその緒プロジェクト」は訴えます。

① 国(厚生労働省)と九州大学油症治療研究班は、早急にカネミ油症被害者の「へその緒」検査体制を立ち上げ、検査を推進すること。

② そして、未認定を含む、すべてのカネミ油症被害者の救済に取り組むことを強く要望します。

なお「へその緒プロジェクト」では今後もカネミ油症被害者の「へその緒検査」を続けます。

2025年1月

映画「母と子の絆～カネミ油症の真実」製作委員会・へその緒プロジェクト

稻塚秀孝・藤原寿和